

藤沢市教育委員会所蔵「高橋コレクション」のシャブティ

南澤 武蔵

Shabtis from the Takahashi Collection Held by the Fujisawa City Board of Education

Musashi MINAMISAWA

キーワード: 古代エジプト、シャブティ (ウシャブティ)、葬送用小像、新王国時代、高橋コレクション

Key-words: Ancient Egypt, Shabti (Ushabti), funerary figurine, New Kingdom, Takahashi Collection

1. はじめに

本稿では、神奈川県藤沢市教育委員会が所蔵している「高橋コレクション」の中から4点のシャブティを紹介する。

シャブティ (またはウシャブティ) は古代エジプトで葬送に関連して製作され、主に墓に副葬された人型の小像である。これまでの発掘調査や盗掘を通し、数多くのシャブティが出土している。現在、世界中の博物館・美術館に収蔵されており、個人での所有もある。資料数が多く、所蔵もさまざまであるため、詳細不明や未発表のシャブティも多い。近年はヨーロッパを中心にシャブティの目録化が進み、これまで知られていなかった資料も研究に加えることが可能となってきた¹⁾。

シャブティは葬送や来世に対する考え方と結びついているため、その研究は古代エジプトの社会を葬制から明らかにする一助となる。シャブティに関する研究は、1977年にシュナイダー (H. D. Schneider) が出版した著書 (Schneider 1977, I-III) を基本とする。しかし、既に出版されてから35年以上が経っている。研究のさらなる発展には、発掘調査による報告とともに、現在さまざまな形で所蔵されているシャブティを資料として利用できる形にすることが必要となる。欧米ではこうしたシャブティの目録化が既に進められているが、日本に収蔵されているシャブティにおいてはその作業が始められているとは言えない。そこで本稿は、日本で所蔵されているシャブティを資料として活用可能な形にすることを目的とする。シャブティの研究を日本から進めるための端緒として、藤沢市教育委員会所蔵の「高橋コレクション」から、詳細が未発表であったシャブティを中心に紹介する。

2. 高橋コレクション

高橋コレクションとは

高橋コレクションは神奈川県藤沢市鶴沼在住であった高橋良氏が長年にわたって蒐集された古代文化に関連する資料であり、昭和56年(1981年)7月に藤沢市に寄贈されたものである (藤沢市教育委員会 1985: 1; 1987: 1)。コレクションは3,500件、点数にして10,000点にもなる。世界各地の資料からなり、その資料は日本を含む東アジア地域、東南アジア地域、中央アジア地域、イラン・イラクやエジプトなどのオリエント地域、ギリシア・イタリアなどの地中海地域、そしてメキシコやペルーなどの中南米地域に及んでいる。多種多様な材質・形態・用途の資料が集められている。時代としては旧石器時代から13世紀前後までにわたる (藤沢市教育委員会 1987: 1, 15-17)。

藤沢市は、寄贈された資料を「高橋コレクション」として市民共有の文化財産、社会教育の実物資料 (博物館資料) として活用するための取り組みを進めてきた。高橋コレクションの紹介は、高橋良氏による講演の他、昭和56年、59年、60年の資料やパネルによる展示、昭和62年からは「藤沢市民ギャラリー」における常設展示室の利用などによって進められてきた (藤沢市教育委員会 1987: 1)。現在は藤沢市のWebページ「電子博物館みゆネットふじさわ」で一部の資料について閲覧することができる²⁾。また、常設展示室を利用し、藤沢市教育委員会の生涯学習課「博物館準備担当」(平成25年4月1日より郷土歴史課) によって年1~2回の企画展が開催されている³⁾。

資料はすべて番号が与えられ、藤沢市教育委員会によってカタログ化も行われており、『高橋コレクション総目録Ⅰ~Ⅶ』として刊行されている。地域ごとに主な遺物がまとめられており、学術資料としても活用できる形が整えられている。

エジプト関連のコレクション

高橋コレクションの中で、エジプトに関する資料は『高橋コレクション総目録Ⅱ：エジプト』（以下、「総目録Ⅱ」とする）に収録され、231点を数える⁴⁾。総目録Ⅱの中で、各資料には総目録の番号（II-〇〇〇）と高橋コレクションの番号（TC-〇〇〇〇）が与えられている。

資料はレプリカも含むが、装身具などの小物だけではなく、アマルナ様式のレリーフ（II-101, TC-3B09j）や奉納用石碑（II-102, TC-3B28j）、古王国時代の木棺片（II-122, TC-8K09j）など多岐にわたる（藤沢市教育委員会1989）。上掲書には143点が写真とともに掲載され、名称、時代、材質、法量が記されている。その他の資料に関しては、写真はなく、名称のみが記されている。

これらの資料は上述の定期的な企画展で展示される他、他の展覧会への貸し出しもなされている⁵⁾。Webページ上にも4点が紹介され、自由に見ることができる。

シャブティおよびシャブティ関連のコレクション

高橋コレクションの総目録Ⅱ中で「ウシャブティ」とされている資料は13点（II-69～74, 162～168）ある。その他に「土偶」とされているII-86（TC-4B02j）もシャブティである。また、シャブティ関連の資料としてはアंकとシャブティとが合わさった護符II-58（TC-8L02j）もあり、高橋コレクション中には合わせて計15点のシャブティおよびシャブティ関連の資料が含まれている。

3. 新王国時代のシャブティ

シャブティは第一中間期に原型が出現し、中王国時代の第12王朝頃に被葬者の名前を記したミイラの姿を模した像がシャブティとして副葬されるようになった。中王国時代のシャブティは被葬者のミイラ姿を表したもので、高位の人物の墓に1～2体を副葬として入れるのみであった（Taylor 2001: 117）。シャブティの役割を示した「シャブティの銘文」が記されたものは、第12王朝末頃に年代づけられるものが最も古く、銘文は第二中間期から新王国時代の第18王朝初期にかけて発達した（Schneider 1977: I, 78）。

シャブティの呼称は「シャブティ (*s3bty(w)*)」「シャワブティ (*s(3)w(3)bty*)」「ウシャブティ (*wšbty*)」の3つが用いられた。当初は「棒切れ、木切れ」を意味する語から派生したとされる「シャブティ」であり、第二中間期に「シャワブティ」の呼称も用いられるようになった。そのため、新王国時代には「シャブティ」または「シャワブティ」と呼ばれていた（Schneider 1977: I, 136-8）。そして、末期王朝時代になると「答える者」を意味する「ウシャブティ」と呼ばれた（Schneider 1977: I, 138; Stewart 1995:

13, Janes 2002: xv-xvii）。この呼称の変更には、シャブティの担う役割が新王国時代に変化したことも関係している。

シャブティは本来、ミイラの姿（ミイラ型）で示された「被葬者」自身であり、一方で被葬者の「召使」でもあるという二重の役割を担っていた。しかし、新王国時代になると、シャブティの役割は次第に変わっていく。第18王朝には「死者の書」第6章（通称「シャブティの章」）に基づいた銘文が一般化し、次第に「召使」としての役割が強調されるようになっていった（Taylor 2001: 121）⁶⁾。トトメス4世の治世にはシャブティが農具や籠を身につけるようになり、来世で被葬者に代わって労働を行う「召使」としての姿でシャブティが表わされるようにもなる。そして、ポスト・アマルナ時代には日常の着衣の姿（着衣型）で表されたシャブティが作られ始め、新王国時代後半にはこの着衣型シャブティが「監督官」の役割を担う像、ミイラ型シャブティが「労働者」の役割を担って来世での日々の労働をする像とされていった（Schneider 1977: I, 261）。

それにともない、多量のシャブティが新王国時代後半、とくに第20王朝の埋葬から王族以外でも副葬されるようになり、1人の埋葬に対して数十体、数百体ものシャブティが納められるようになった（Schneider 1977: I, 261）⁷⁾。シャブティの素材は第18王朝まで主流であった石や木に加え、新王国時代後半は製作の容易さや安価である点からファイアンスや素焼き土器が多用されるようになり、個々のシャブティの質も良質なもののから粗雑なものまでと幅広くなった（Schneider 1977: I, 235-238）。

4. 高橋コレクションのシャブティ調査
目的

今回、調査を行ったシャブティは、すべて新王国時代に属するシャブティである。総目録Ⅱで写真の掲載がなかった石製シャブティ2点と土製シャブティ⁸⁾1点、「土偶」として掲載されていた土製シャブティ1点の計4点である。

新王国時代のシャブティに関しても、その理解はシュナイダーの研究に負うところが多い⁹⁾。しかし、現在進められている資料化や近年の発掘調査において、新たな資料の蓄積が行われてきた。とくに、新王国時代のシャブティは、メンフィス・ネクロポリス（Memphite Necropolis）での新王国時代の墓地群の発掘が進んだことで資料数の増加が著しい。こうした資料の蓄積は、シャブティを利用した新王国時代の葬送や埋葬の研究を可能としている¹⁰⁾。そこで、筆者も新王国時代のシャブティに焦点を当て、高橋コレクションの中でこれまで詳細が未発表であった新王国時代のシャブティを資料化し、同時代のシャブティに関した研究をさらに進めるための一資料とする。

分類方法

シャブティの特徴は、シュナイダーによって考案された分類方法によって示すのが一般的であり、多くの報告書やシャブティの集成で用いられている¹¹⁾。分類は、①時代による部類 (Class, Cl. I~XII)、②形態的諸要素：髪 (W0~42)、手と腕 (H0~35)、道具 (I0~26)、籠 (B0~30)、その他付属品 (A1~7)、銘文帯の配置 (Tp1~14)、③銘文の内容 (V. I~VII) の組み合わせによって行われる。組み合わせることで、類似するシャブティや時代を特定し、多種多様なシャブティ进行分类する。

①はシャブティに見られる時代ごとの特徴で分類したものであり、新王国時代の部類はミイラ型 (Cl. VA~G)、着衣型 (Cl. VIA~F)、特殊型 (Cl. VIIA~F) に大別される。また、②の形態的諸要素の中には、各時代の特徴を示す要素もあり、髪の W4b~W15 や籠の B9a~B11 は新王国時代の要素だとされている。③の銘文帯に記される内容や語句にも各時代で用いられ方に特徴がある。新王国時代の銘文の内容は最も簡略的な「シャブティの銘文」である V. IIIA を基本とし、語句の並びや追加による違いから他に 10 種類 (V. IIIB~C、V. IVA~D、V. VA~C、V. VIA) に分けられる。

各シャブティの紹介

No. 1

番号：II-162 (TC-3B01j) (図1-3)

寸法：高さ 18.85 cm、横幅 6.70 cm、厚さ 5.18 cm

材質：石灰岩

分類：Cl. VB4/ W14 H30 I3 B9a A- Tp3a / V. IIIA

特徴：彫刻と着色により細部が表現されている (図1,2)。髪は額から後背にかけては縦縞、耳から左右の肩に垂れる房は格子縞である。組み合わせ式の髪を表しており、彫刻をした上に黒色で着色されている。顔は眉毛、目、鼻、口が彫られており、それぞれ黒色での着色または縁取りがなされている。胸には4列の胸飾りが表現されており、彫刻されている3列には一部朱色の着色が確認できる。また、4列目は黒色の線で描かれている。組んだ腕の部分は表されず、手だけが彫刻されて朱色に塗られている。右手に刃幅の広い、左手に狭い鍬がそれぞれ彫刻され、手と同じく朱色に塗られている。

脚部には横に4列の銘文帯があり、背中の縦1列の銘文帯へとつながっている。銘文帯は枠線、ヒエログリフとともに、線刻された上に黒色で着色されている。銘文の内容は V. IIIA で、新王国時代のシャブティに記される典型的なものの一つである。シャブティの所有者としては「メフ」という男性の名が読める¹²⁾。名前を記した文字には他の銘文帯の箇所とは異なり、ヒエラティックの下書きをそ

のまま彫ったと思われる文字がある¹³⁾。また、名前の後ろに付けられた男性を示す文字が不自然に詰まっている点も合わせると、メフの名前は後から II-162 (TC-3B01j) のシャブティに加えられたと考えることができる。シャブティは名前の箇所を空白にして製作され、購入後に被葬者の名前が入れられたとされる。名前を入れずに作り置かれたシャブティに後から名前が加えられた例がある (Schneider 1977: I, 241, note. 87)。II-162 (TC-3B01j) の銘文帯は、一見、他の銘文の文字と同じように着色などが行われているが、購入後に名前の箇所だけが入れられたことを示す一例である。

背面には両肩から下がる格子状の網目をもつ籠が彫られ、朱色で着色されている。

銘文帯：新王国時代の典型的なシャブティの銘文の1つである (図3)。

脚部 (1) *Shd wsir Mh ddf i* (2) *s3bty ipt (n) ir ip.tw ir hsb.tw r irt k3t* (3) *nbt irrt m hrt-nrt* (4) *r srd shwtw r smhyt*.

背面 (5) *wdb r hnt s'cy n i3bty r imnty*.

〔訳〕 (1) セヘジュ (輝く)、オシリス、メフ、彼が話す。おお、(2) これらのシャブティよ、もし呼び出され、(3) もし神の土地でなされるべきすべての仕事をなすようにと命じられたら、(4) 土地を耕し、風のある河岸の地を灌漑し、(5) 東にある砂を西へと舟で運びなさい。

時代：第19王朝 (初期)。このシャブティの特徴は、組み合わせ式の髪 (W14) である。W14 などの上・下部からなる組み合わせ式の髪は新王国時代に特徴的な髪であり、アメンヘテプ3世の治世以降に用いられるようになり、セティ1世の治世に流行する (Vandier 1958: 485,486; Sch-



図1 II-162 (TC3B01j) (藤沢市教育委員会蔵)

neider 1977: 165)。シャブティにおいても同じ時期に利用されるが、第18王朝末に着衣型シャブティが登場すると、主に着衣型シャブティの髪として表現が定着し、次第にミイラ型シャブティでは用いられなくなっていく¹⁴⁾。

メフのシャブティにはアメンヘテプ3世やアクエンアテン治世下の特徴が見られない。髪と顔の組み合わせが近似する例としては、着衣型シャブティではあるが、第19王朝初期に年代づけられているラーイのシャブティ (ÄS 17) がある¹⁵⁾。また、テーベ (Thebes) 出土の第19王朝初期のネフェルレンベトのシャブティ (CI 303) や、銘文帯の位置は異なるが、サッカラ (Saqqara) のパイ墓で出土した第19王朝のラメセスナクトのシャブティが全体として類似する¹⁶⁾。そのため、メフのシャブティは第19王朝に年代づけられ、同時代でも比較的早い時期だと考えることができる。

出土地：不明

類例：Schneider 1977: II, 64, III, Pl. 21, Ld. 3.2.1.25; Raven 2005: 72, cat.10, Pls. 92, 102.

No. 2

番号：II-164 (TC-3B03j) (図4)

寸法：高さ 15.66 cm、横幅 4.50 cm、厚さ 4.20 cm

材質：アラバスター (雪花石膏)

分類：Cl. -/ W4b H1 I- B26a A- Tp7c/ V. -

特徴：髪と顔の輪郭、口、手、腕が彫刻されている。髪、顔 (眉、目、口)、手、腕には黒色で着色や輪郭線が描かれ、銘文帯の枠も黒色で線が引かれている。口には薄く赤味のある着色も残る。シャブティは三部構成の髪 (顔の両側と後頭部の三方に垂れる髪) を着けている。腕は右手を上にして組み、手は甲が表に向き、指は閉じた状態で伸ば

されている¹⁷⁾。銘文帯は枠のみで何も記されていない。背中には籠が描かれている。籠は左肩から一本の紐で吊るされている。

着色や輪郭線は薄い黒色インクでなされ、その上からピチュメン (瀝青) またはレジン (松脂) でなぞられている。髪、顔の左側面、背面右側は削られており、背面に描かれた籠の下や腰部周辺には赤色や黒色の着色痕が点在する。そのため、後に手が加えられて装飾がし直されたシャブティだと考えられる。シャブティは彫り直しなどによって、再利用されることがあった¹⁸⁾。口の輪郭も新しく彫り直されたものだと考えられる。

時代：第20王朝。アラバスター製で比較的つくりの粗いシャブティは第20王朝に年代づけられる例が多く、下記の「類例」に挙げたライデン国立古代博物所蔵のシャブティ (F 1973/6.2, Ld.3.2.4.11) やウィーン美術史美術館のアラバスター製シャブティ (ÄS1686a/21~23) は特に側面の形態がII-164 (TC-3B03j) と類似している。また、細部を表現している線のうち、下の黒色線は第20王朝のアラバスター製シャブティで用いられているものと類似する。こうした点から、本稿のII-164 (TC-3B03j) も類例から考えると第20王朝に年代付けられる¹⁹⁾。

籠はサイス朝期 (第26王朝) に特徴的な B26a に分類できるが、新王国時代のシャブティにもサイス朝期のものと類似した籠が表現された例はある²⁰⁾。また、上述のように後の改変で書き替えられた可能性もある。

出土地：不明

類例：Petrie 1935: Pl. XXXVI, 248-252; Schneider 1977: II, 76, Pl. 27, Ld. 3.2.2.11, II, 79, 80, Pl. 29, Ld. 3.2.4.3, Ld. 3.2.4.10, Ld. 3.2.4.11; Reiser-Haslauer 1990: 77-80, ÄS 1686a/21~23.

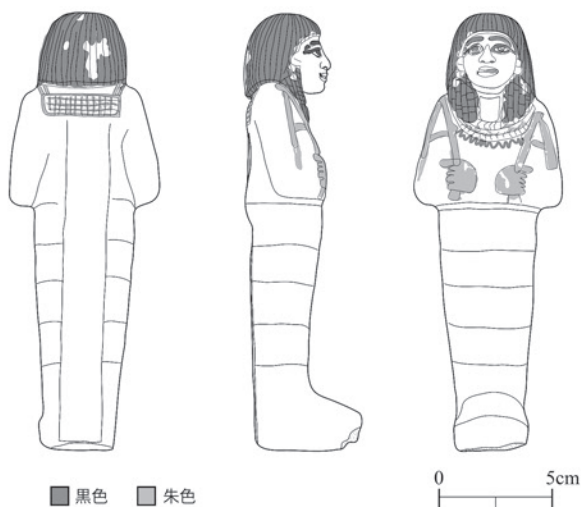


図2 II-162 (TC-3B01j) (銘文帯については図6を参照)

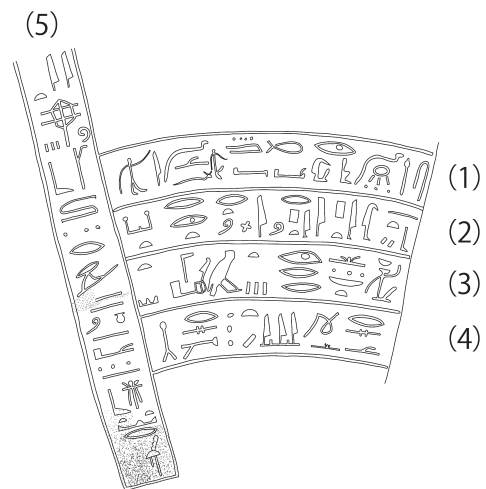


図3 II-162 (TC-3B01j) の銘文帯

No. 3

番号：II-165 (TC-4B01j) (図5)

寸法：高さ 17.05 cm、横幅 5.80 cm、厚さ 4.09 cm

材質：土器（胎土：Nile D）²¹⁾

分類：Cl. VF/ W4b H1 I5 B0 A- Tp-/ V. -

特徴：型押しによって製作されたシャブティである。表面は焼成によって全体的に明るい茶色（8YR 5.0/11.0）であり、脚部に焼き斑が見られる。正面には鬘、顔、腕および手、道具の鋤または鍬が表されている。顔部には眉、目、鼻、口の他に耳が型押しによって表現されている。脚部には黒色の着色がわずかに認められるため、本来は銘文帯があったと推測される。背面は削りによって調整され、装飾的な要素はまったくなく平らである。脚部の先端は後ろから前へと曲げ出すように形成され、側面では弧をなしている。

側面の観察からは、型が表面にのみ押され、余分な部分と背面の調整は削りによって行っている。正面を型押しで作り、背面を削って整える例は土製シャブティで非常に多く見られる。削って調整した面には 2 mm 大の石灰岩やその痕が見られる。

時代：第 19 王朝。土製シャブティは第 18 王朝の初期から製作され、第 19 王朝後半以降に大量生産されるようになる（Schneider 1977: 237）。型押し製法は第 18 王朝から用いられていたが、第 18 王朝期に作られたシャブティは型押しが正面のみであっても顔や体軀が細かく表現されている。それに対して、第 19 王朝や第 20 王朝に年代づけられるシャブティでは体形がより簡素になり、細かい表現も失われていく²²⁾。また、湾曲した足は新王国時代後半の土製シャブティに見られる特徴だとされる（Stewart 1995: 43）。土製シャブティには足先が扁平となる型と足先が丸く膨らむ型とがあるが、足先が扁平となる型は第 19 王朝に年代づけられている例が多い²³⁾。



図4 II-164 (TC-3B03j) [藤沢市教育委員会蔵]

II-165 (TC-4B01j) は全体として簡素な体軀であり、新王国時代後半のシャブティであることを示している。耳などの細かい表現が残っていることや、足の湾曲及び扁平な足先などの特徴を合わせると第 19 王朝に年代づけられる。

出土地：不明

類例：Petrie 1935: Pl. XXXII, no.134; Schneider 1977: II, 111, III, Pl. 44, Ld. 3.5.2.3²⁴⁾。

No. 4

番号：II-86 (TC-4B02j)²⁵⁾ (図6)

寸法：高さ 15.40 cm、横幅 4.50 cm、厚さ 3.60 cm

重量：150.0 g²⁶⁾

材質：土器（胎土：Nile D）

分類：Cl. VF/ W4b H0 I- B0 A- Tp?/ V. -

特徴：型押し技法で製作されたシャブティである。表面は焼成によって明るい茶色（8YR5.5/6.5）となっている。鬘、顔、脚部の輪郭が明瞭である。顔には目、鼻、口を示す線がわずかに残っている。また、腕や手は表現されていないが、組んだ腕と下腹部の境を示す線が刻まれている。「類例」に挙げたシャブティ（Janes 2011b; Raven et al. 2011）が第 19 王朝に年代づけられていることから、こうした手や腕の表現もない土製シャブティは、第 19 王朝に最も簡素な土製シャブティの形として確立されていたと考えられる。

脚部には銘文帯を示す痕跡は残されていない。足には新王国時代後半の土製シャブティで特徴的に見られる湾曲がある。

シャブティの周囲には型押し技法で製作した際に余分となった粘土がそのまま残されている。背面は装飾的な要素が


図5 II-165 (TC-4B01j) [藤沢市教育委員会蔵]
(背面の長方形の枠はラベルを貼っていた痕跡)

なく粘土の塊のままであり、削って形を調整している。片面にだけシャブティの型を押して製作したことが明確にわかる資料である。

時代：第19王朝。II-86 (TC-4B02j) は簡素な作りではあるが、顔や髪は明確に作られており、側面や背面の整形も丁寧に行われている。サッカラから出土した第19王朝のヘビィのシャブティでも側面・背面で丁寧な整形が見られる（「類例」の Raven et al. 2011）。本稿の No. 3 と同じような足の湾曲と扁平な足先の特徴は新王国時代後半のシャブティであることを示しており、丁寧な整形も合わせて考えると第19王朝に年代づけられる可能性が高い。

出土地：不明

類例：Giddy 1992: 27-29, Pl. 29, 30, 70; Janes 2011b: 27-32, 35, 36, Cat.10a-e, h, i; Raven et al. 2011: 88, 89, Cats.44a-d, 45

5. おわりに

今回の調査では、『高橋コレクション総目録Ⅱ：エジプト』に詳細が掲載されていなかったシャブティを中心に資料紹介を行った。紹介した資料4点は新王国時代のさまざまな時期に製作されたものであった。とくに、第19王朝初めに年代づけられる II-162 (TC-3B01j) は新王国時代のシャブティに典型的な銘文帯をもつことがわかり、被葬者も確認することができた。

II-165 (TC-4B01j) や II-86 (TC-4B02j) などの新王国時代の土製シャブティは、近年のメンフィス・ネクロポリスにおける発掘を中心に資料が増えており、出版物などで資料が紹介されることも多くなっている。これまで、土製シャブティについての研究はあまり行われて来なかったため、今後詳しい研究が期待される²⁷⁾。今回紹介したシャブティも研究の一資料として寄与すると考えている。



図6 II-86 (TC-4B02j) [藤沢市教育委員会蔵]

今後も、さまざまな形で所蔵され、詳細が不明となっているシャブティの資料化を試みていくとともに、資料化したシャブティを利用して新たな研究にも取り組んでいきたい。

謝辞

今回、資料紹介にあたっては、高橋コレクションを所蔵している藤沢市教育委員会から特別に許可していただいた。とくに、同委員会生涯学習課「博物館準備担当」の石塚勝氏には資料の調査段階からご協力をいただき、大変お世話になった。また、早稲田大学エジプト学研究所助教の馬場匡浩先生にも執筆にあたり有益な助言をいただいた。末筆ながら、ここに深く感謝申し上げる。

註

- 1) 例えば、ルーブル美術館では La Base Internationale des Shaboutis (BIS) を設立し、シャブティの目録化を現在積極的に進めている (Bovot 1998: 210-213)。また、これまで十分に資料として利用できなかったヨーロッパの様々な博物館や個人のコレクションに目を向け、目録化して出版する取り組みも行われている (cf. Janes 2002; 2010; 2011a; 2011b)。
- 2) 「電子博物館みゆネットふじさわ」 (<http://www.mus.city.fujisawa.kanagawa.jp/>) の「高橋コレクション」の項参照。
- 3) 藤沢駅北口駅ビルのルミネプラザ6階「藤沢市民ギャラリー」にて毎年行われる。近年の展示は以下の通り。2010年3月2日～4月25日「高橋コレクション～動物園へようこそ～」2011年4月5日～24日、6月21日～7月11日「高橋コレクション idol～神々の造形～」2012年6月19日～9月2日「高橋コレクション 超古道具展」
- 4) 『高橋コレクション総目録Ⅱ：エジプト』については参考文献参照。
- 5) 近年は、2011年10月8日～2012年1月9日まで横浜ユーラシア文化館で開催されていた「古代エジプト青の秘宝ファイアンス」展に資料の一部が貸し出されていた (cf. 横浜ユーラシア文化館 2011: 26, no. 26)。
- 6) 「シャブティの章」に基づいた銘文の一例をあげる (ショー & ニコルソン 1997: 225)。「おお、＜シャブティ＞よ、[死者の名前] が死者の国にてなすべきあらゆる仕事―野を耕し、地に水を引き、東より西に砂を運ぶ―を命ぜられし時は、『ここにおります』と汝は答えよ。『私がいたします』と」
- 7) 具体的な数は Schneider 1997: I, 261, notes 41, 43 を参照。シャブティの数は、第三中間期に入ると、365体の「労働者」と36体の「監督官」を合わせた401体が1セットとなっていく (Schneider 1997: I, 267; Taylor 2001: 127)。
- 8) 土製シャブティは、粘土を素焼きにして製作したシャブティである。英文表記では「pottery shabti」や「terracotta shabti」とされる。日本語表記としては「土製シャブティ」「素焼きシャブティ」などの名称が使われている。粘土を素焼きにしたものを「土製品」呼ぶことから、本稿でも素焼きによって製作されたシャブティの呼称に「土製シャブティ」を用いる。また、材質の表記は「土器」とする。
- 9) 新王国時代のシャブティは、第3章の銘文、第4章の形態的特徴をふまえ、第5章「新王国時代のシャブティの在り方」でまとめられている (Schneider 1977: I, 185-219, 260-316)。
- 10) 例としては、本稿の執筆者によるメンフィス・ネクロポリスから出土した木製シャブティの研究がある (南澤 2011)。

- 11) 分類の詳細は、シュナイダーの研究を参考にされたい (Schneider 1977: I, 81-127, 165-233)。
- 12) ランケ (H. Ranke) による古代エジプト人の名前の集成では、綴りは異なるが新王国時代に用いられていた例がある (Ranke 1935: I, 163.13, 14)。名前を記入するために空けていた箇所の幅に合わせて入れたと思われる。
- 13) ガーディナー (A. Gardiner) のヒエログリフの文字リスト (Gardiner 1957: 438-543) の「D36」「V22」がヒエラティック的である。D36 は銘文帯の他の箇所 (背面) で用いられている同じ文字と比べると明らかである。ヒエラティックの文字については、Möller 1927: II, 8, No.99, 41, No.459 を参照。
- 14) シュナイダーの研究における例では、組み合わせ式の鬘を着けたミイラ型シャブティの例は第 19 王朝でもラメセス 2 世までに年代づけられている (Schneider 1977: 202-204)。一方で、着衣型で組み合わせ式の鬘を着けたシャブティの例は第 19 王朝の後半のシプタハの治世や第 20 王朝に年代づけられている (Schneider 1977: I, 206-210)。
- 15) ウィーン美術史美術館所蔵。Reiser-Haslauer 1990: 5.1-3 を参照。
- 16) ネフェルレンペトのシャブティはライデン国立古代博物館所蔵、「類例」の Schneider 1977 を参照。また、ラメセスナクトは「類例」の Raven 2005 を参照。
- 17) 指先を伸ばしている手をもつシャブティは多くないが、シュナイダーによる形態的諸要素でも H6 として分類されている (Schneider 1977: I, 168, III, Fig. 12)。また、指先を伸ばした手をもつ 1 例としては、アビュドスで出土した石灰岩製のシャブティがある (Randall-MacIver and Mace 1902: Pl. XXXIX)。
- 18) テーベで出土した新王国時代の木製シャブティは、元の表面を樹脂で覆い、その上から名前が書き換えられていた (Bleiberg 2010: 39, 42, 43)。
- 19) 高橋良氏の購入時のメモにも「エジプト 19~20 Dynasty ロンドン入手 珍品」とある。
- 20) イギリスのウォリントン博物館・美術館が所蔵する第 19 王朝のナクトヒルケベシュエフのブロンズ製シャブティ (RA 246) の籠がサイス朝期に特徴的なものに類似している (Janes 2011a: 8, Cat. 5)。
- 21) 胎土は、エジプトの胎土分類システムであるウィーン・システムを用いた (Bourriau and Nordström 1993; Bourriau et al. 2000: 130-132)。「Nile D」はナイル・シルトの胎土であり、石灰岩小片が多く胎土中に含まれる点の特徴である。
- 22) 例えば、ウィーン美術史美術館所蔵の第 18 王朝に年代づけられている土製シャブティ (ÄS 8719) は顔に耳の表現があり、全体や脚線に丸みがある (Reiser-Haslauer 1990: 5.141, 142)。それに対し、第 19 王朝以降のシャブティ (ÄS 7927) は細部の表現が省かれ、全体や脚線が直線的になっている (Reiser-Haslauer 1990: 5.101, 102)。
- 23) 例としてサッカラのティア墓前庭部から出土したヘビィのシャブティ (Raven et al. 2011: 88, Cat.44a, b)、セドメント (Sedment) 出土のシャブティ (Janes 2011b: 18, 19, Cat.5, SED 27.1, SED 27.2)、リーファ (Rifeh) から出土したシャブティ (Janes 2011b: 38, 39, Cat.11, T: 17329) が挙げられる。
- 24) ライデン国立古代博物館所蔵の Ld.3.5.2.3 (AF37a) はシュナイダーによって、第 20 王朝に年代づけられているが、耳や足の表現から第 19 王朝に属するものだと考えられる。
- 25) 『高橋コレクション総目録Ⅱ：エジプト』では「土偶 Clay Figure」として掲載されているが、新王国時代のシャブティに類似が多くあり、形態的特徴からシャブティだとすることができる。
- 26) 藤沢市教育委員会 1989: 55, II-86 より引用。
- 27) 少ないながらも、近年行われた土製シャブティについての研究としては、素焼きの土棺と土製シャブティとの製作における類似を指摘した論考がある (Gander 2009)。

参考文献

- Bleiberg, E. 2010 Reused or Restored? The Wooden Shabti of Amenemhat in the Brooklyn Museum. In S. H. D' Auria (ed.), *Offerings to the Discerning Eye: An Egyptological Medley in Honor of Jack A. Josephson*, 39-43, Leiden and Boston, Brill.
- Bourriau, J. D., P.T. Nicolson, and P. J. Rose 2000 Pottery. In P. T. Nicolson and I. Shaw (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, 121-147, Cambridge, Cambridge University Press.
- Bovot, J. -L. 1998 Le Catalogue des Serviteurs Funéraires (Shabouiti, Ouchebti) du département des antiquités égyptiennes du musée du Louvre. In C. J. Eyre (ed.), *Proceedings of the Seventh International Congress of Egyptologists*, 201-213, Leuven, Uitgeverij Press.
- D' Auria, S. H., P. Lacovara, and C. H. Roehrig 1998 *Mummies and Magic: The Funerary Arts of Ancient Egypt*, Hong Kong, Dallas Museum of Art with the permission of the Museum of Fine Arts, Boston.
- Gander, M. 2009 Pottery Coffins and Ushabtis from Tell Basta, *Annales du Service des Antiquités de L'Égypte*, 83: 245-54.
- Gardiner, A. 1957 *Egyptian Grammar: Being an Introduction to the Study of Hieroglyphs (Third Edition)*, Revised, Oxford, Griffith Institute.
- Giddy, L. L. 1992 *The Anubieion at Saqqāra II: The Cemeteries*, London, Egypt Exploration Society.
- Janes, G. 2002 *Shabti: A Private View, Ancient Egyptian funerary statuettes in European private collections*, Paris, Cybele.
- Janes, G. 2010 *The Shabti Collections 1: West Park Museum, Macclesfield*, Cheshire, Olicar House Publications.
- Janes, G. 2011a *The Shabti Collections 2: Warrington Museum & Art Gallery*, Cheshire, Olicar House Publications.
- Janes, G. 2011b *The Shabti Collections 3: Rochdale Arts & Heritage Service*, Cheshire, Olicar House Publications.
- Möller, G. 1927 *Hieratische Paläographie: Die Aegyptische Buchschrift in ihrer Entwicklung von der Fünften Dynastie bis zur Römischen Kaiserzeit*, Osnabrück, Otto Zeller.
- Nordström, H.Å. and J. D. Bourriau 1993 Ceramic Technology: Clays and Fabrics. In D. Arnold and J.D. Bourriau (eds.), *An Introduction to Ancient Egyptian Pottery* (SDAIK 17), 140-190, Mainz am Rhein, Philipp von Zabern.
- Petrie, W. M. F. 1935 *Shabtis*, London, British School of Egyptian Archaeology.
- Randall-MacIver, D. and A. C. Mace 1902 *El Amrah and Abydos*, London, The Egypt Exploration Fund.
- Ranke, H. 1935 *Die Ägyptischen Personennamen, Bd. I*, Hamburg, Glückstadt.
- Raven, M. J. 2005 *The Tomb of Pay and Raia at Saqqara*, Leiden/ London, National Museum of Antiquities Leiden/ Egypt Exploration Society.
- Raven, M. J., V. Verschoor, M. Vugts and R. van Walsem 2011 *The Memphite Tomb of Horemheb Commander in Chief of Tutankhamun V: The Forecourt and the Area South of the Tomb with some notes on the Tomb of Tia*, Turnhout, Brepols Publishers.
- Reiser-Haslauer, E. 1990 *Corpus Antiquitatum Aegyptiacarum, Kunsthistorisches Museum, Wien, Ägyptisch-Orientalische Sammlung, Lieferung 5, Ushebti I*, Mainz am Rhein, Philipp von Zabern.

- Schneider, H. D. 1977 *Shabtis: An Introduction to the History of Ancient Egyptian Funerary Statuettes with a Catalogue of the Collection of Shabtis in the National Museum of Antiquities at Leiden, vols. I-III*, Leiden, Rijksmuseum van Oudheden.
- Stewart, H. M. 1995 *Egyptian Shabtis*, London, Shire Egyptology.
- Taylor, J. 2001 *Death and the Afterlife in Ancient Egypt*, Chicago, The University of Chicago Press.
- Vandier, J. 1985 *Manuel d'Archéologie Égyptienne, Tome III*, Paris, A. et J. Picard.
- I. ショー・P. ニコルソン (内田杉彦訳) 1997『大英博物館古代エジプト百科事典』原書房。
- 藤沢市教育委員会 1985『過去から現在・未来をつなぐ 寄贈高橋

- コレクション紹介展—展示資料目録—』藤沢市教育委員会。
- 藤沢市教育委員会 1987『古代文化資料 高橋コレクション』藤沢市教育委員会。
- 藤沢市教育委員会 (吉村作治監修) 1989『高橋コレクション総目録 II: エジプト』藤沢市教育委員会。
- 南澤武蔵 2011「メンフィス・ネクロポリス出土の新王国時代のシャブティに関する一考察—木製シャブティを中心として—」『エジプト学研究』第17号 148~175 項 早稲田大学エジプト学会。
- 横浜ユーラシア文化館 2011『古代エジプト青の秘宝 ファイアンス』横浜ユーラシア文化館。

南澤 武蔵
鎌倉女学院中・高等学校
Musashi MINAMISAWA
Kamakura Jogakuin Junior and Senior High School